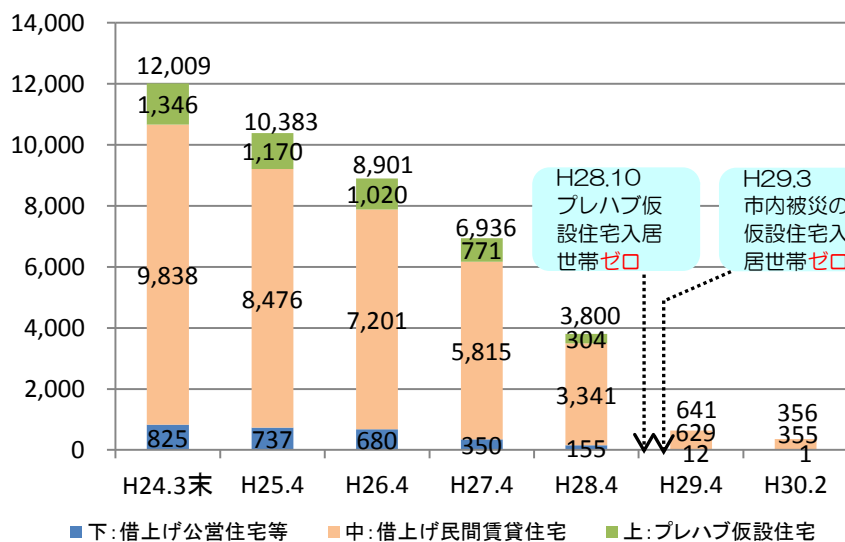




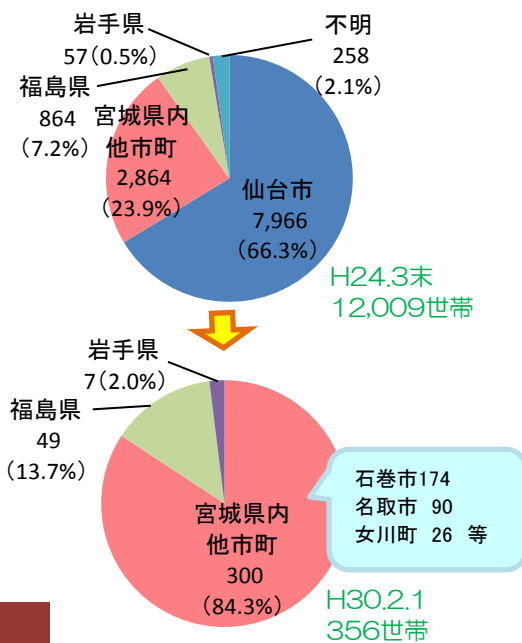
入居世帯の推移と震災時の居住地別入居状況

- 市内の仮設住宅入居世帯は356世帯となり、ピーク時（平成24年3月末）の3.0%まで減少しています。
- 市内で被災された世帯は平成29年3月末までに全て再建され、仮設住宅には市外で被災された世帯のみが入居されています。
- プレハブ仮設住宅は平成29年3月末までに全て解体され、市内の仮設住宅入居世帯は全て、借上げ民間賃貸住宅等の「みなし仮設住宅」に入居されています。

入居世帯の推移



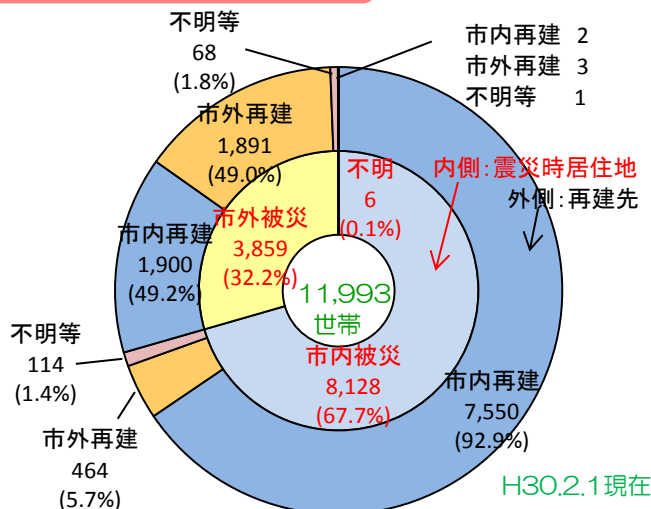
震災時の居住地別入居状況



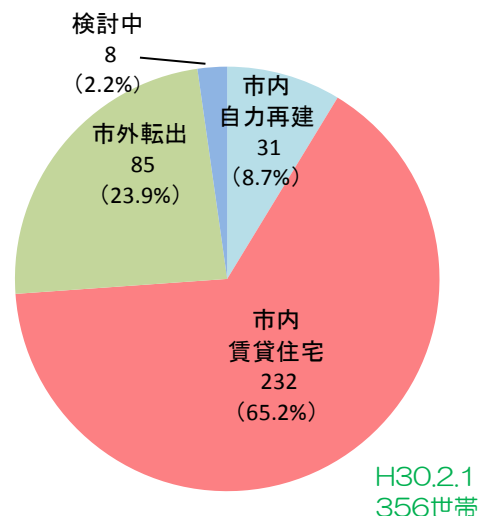
入居世帯の住まいの再建

- これまで再建された世帯のうち、約79%の世帯が仙台市内で再建されています。（市内被災世帯の約93%、市外被災世帯の約49%が仙台市内で再建）
- 仮設住宅に入居されている世帯のうち、約74%の世帯が仙台市内での再建を希望されています。

震災時の居住地別再建状況

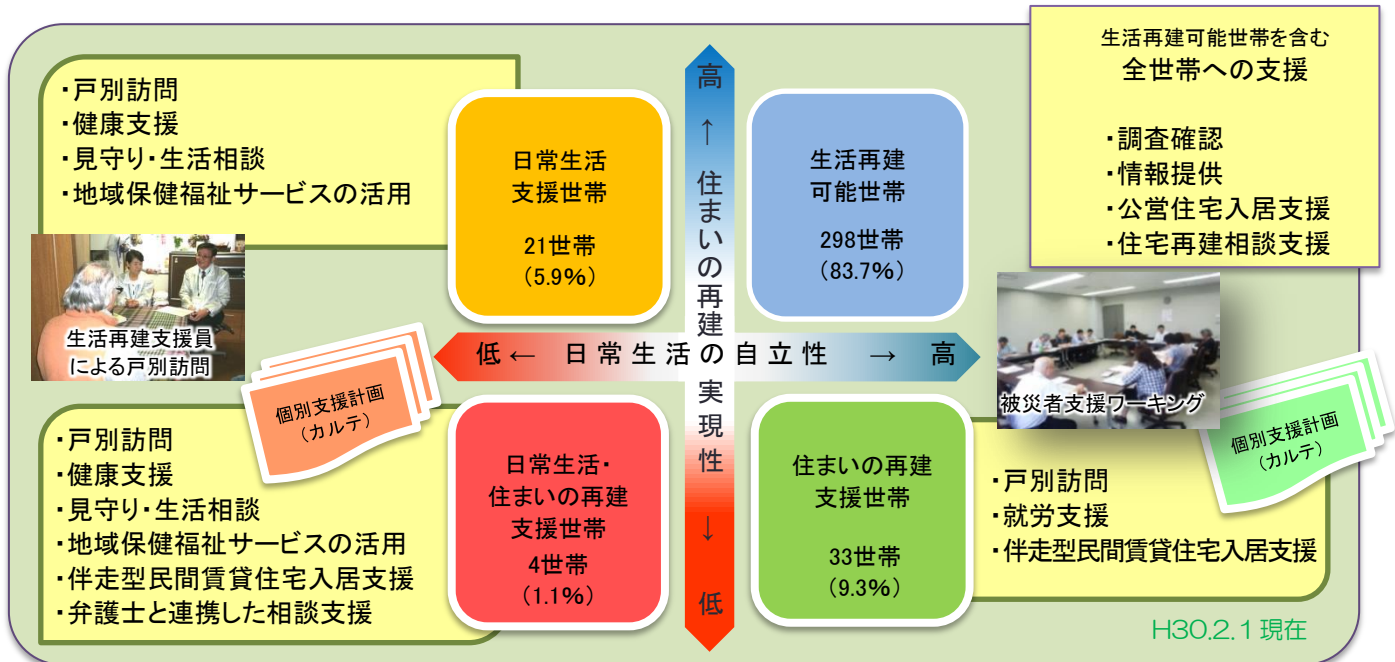


仮設住宅入居世帯の再建方針



入居世帯への支援

新たな生活の場へ供与期間内に確実に移行できるよう、戸別訪問等を通じて課題を抱える世帯に対する移行支援に取り組んでいます。

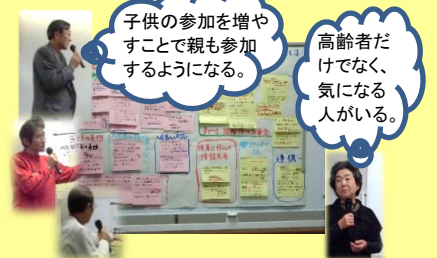
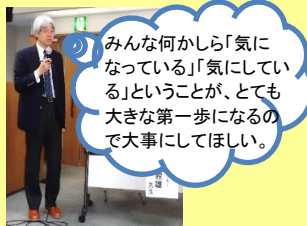


「つなぐ・つながるプロジェクト」でコミュニティを元気に！

仙台市と市社会福祉協議会は、復興公営住宅と地域のコミュニティ活性化を後押しする「つなぐ・つながるプロジェクト」の一環として、復興公営住宅や集団移転先地の町内会の役員さん等にお集まりいただき、コミュニティ活動を行う上での課題や解決のヒント、先進的な取り組み事例の共有などを目的に情報交換会を開催しています。

3回目の情報交換会の様子 (H29.11.20開催)

「町内会活動に参加してもらうには」「高齢者の見守りについて」「住民トラブルの対処法」の中からテーマを選び、7グループに分かれてコミュニティソーシャルワーカーの進行で意見交換を行った後、各グループの発表ごとに東北学院大学特任教授の本間照雄先生から、コミュニティを元気にするためのヒントとなるコメントをいただきました。



★当日の参加者アンケートでは、「参考になる話が聞けたこと」「同じ立場の人同士で話げできたこと」が良かった、との声が多数寄せられました。また、同じ悩みが共有できたことで「心の支え」になるとのご意見もありました。

詳しくはホームページをご覧ください
<http://www.shakyo-sendai.or.jp/n/archives/25300>

「つなカタログ」を活用したサロン活動

曹洞宗総合研究センター主催の「ビーズプレスレット作りとお茶会」の様子
 霊屋下第二市営住宅
 H30.1.19



こんなことも

住民主体の定期的なサロン活動の担い手を発掘・養成するための講座の開催
 ⇒ サロンの立上げ成功！
 上原市営住宅 H30.2.14

「サロン立上げ応援プログラム」

